

**1 ハンズオン General 1月19日(土) 13:30-17:00 (3:30)****コース名 : General POCUS**

これからPOCUSを始めようとしている医師、POCUSとはどんなものか興味を持つ医師にPOCUSの基本を体験する機会にする。

POCUSを自己流でやっている医師が、各領域のプロフェッショナルの医師と直接対話したり、プロのテクニックを学ぶ機会をつくる。

- ・5～6人のグループで心臓、腹部、肺・気道、血管・神経の4つのブースを45分づつローテーションします(移動時間、トイレ休憩として5分取っています)
- ・45分間の使い方は、各ブースのインストラクターにお任せします。スライドプレゼンテーション(大きめのモニターを用意する予定)もできますし、ライブでご説明いただいてもかまいません。プレゼンなしですべてハンズオンとしても、参加者は一人最大で7、8分しかプローブをもつ時間がないので、受講生にプローブを持たせて画像を出させながら、プローブを持っていない方に説明することを繰り返すと、プローブをもたない方が飽きないと思います。
- ・時間的には、基本断面の出し方、正常解剖のオリエンテーションくらいになると思います。

受講対象者：初期研修医、POCUS初心者(プライマリケア、救急医、集中治療医、総合内科医など)

	氏名	所属
ディレクター	山田 博胤	徳島大学地域循環器内科・超音波センター
4領域ローテート形式	心臓FoCUS 肺・気道 腹部 血管・神経	

**2 ハンズオン頸部 1月19日(土) 13:30-17:00 (3:30)****コース名 : 頸部で超音波を使いこなす**

頸部には、狭い領域に多彩な臓器が密集しており、各年代の患者で様々な疾患や病態が発生する。それらの各疾患・病態を超音波で診る場合、検査条件や着目点が変わってくる。今回のハンズオンでは、頸部全体の解剖学的構造、実際の生体内での動きや働き、発生しやすい疾患の特徴とその部位想定しつつ、POCUSによって頸部全体の状態を素早く把握し疾患の察知ができるようになることを目的とする。超音波ガイド下に施行する頸部のインターベンションに関する学習も予定である。

受講対象者：頸部領域の超音波診断にご興味のある医師

	氏名	所属
ディレ・コーディネイター	古川 まどか	神奈川県立がんセンター頭頸部外科

**3 ハンズオン 運動器 1月20日(日) 9:00-12:30 (3:30)****コース名 : 下肢救急外傷の超音波診断と超音波ガイド下治療**

下肢の救急外傷で遭遇する機会が多い足関節捻挫、下腿肉離れ、そしてアキレス腱断裂。診断の基本は「まず、エコー!」。正確な診断と経過予測のコツ、さらに「はい、湿布・痛み止め」程度で「お茶を濁さない」、患者さんを落胆させない、しかも「整形外科医を唸らせる」初期対応がマスターできます。

受講対象者：救急医・総合診療医・研修医・整形外科医

	氏名	所属
ディレ・コーディネイター	皆川 洋至	医療法人城東整形外科

#### 4 ハンズオン小児 1月20(日) 9:00-12:30 (3:30)

##### コース名：小児救急で使えるPOC超音波検査

近年、成人と同様に小児でも診療医による超音波検査が普及してきました。非侵襲性や放射線被曝がないこともあり、超音波検査は小児の多くの疾患・病態に適応される検査ですが、その診断制度は術者に依存するところが大きいのが問題です。本コースでは、小児に適応のあるPOC超音波検査のうち、1講習で2-3領域を取り上げ講義と実技、シミュレーションを組みわせてその知識と技術を習得することを目的としました。今回は、心臓、腹部、超音波ガイド下手技の3領域を少しずつ勉強していきます。小児特有の疾患（動脈管性依存疾患や腸重積など）を中心に講義・実技で楽しみながら学習していただければ幸いです。

受講対象者：外来・救急外来で小児診療にあたる医師

	氏名	所属
ディレクター	市橋 光	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科
ディレ・コーディネイター	森 崇晃	Family Medical Practice, Vietnam

#### 5 ハンズオン気道/神経 1月20(日) 13:40-17:10 (3:30)

##### コース名：気道&神経ブロックBASIC

穿刺モノを行うための基本を学ぶハンズオンです。【気道】気道確保の最終手段である輪状甲状靭帯穿刺や切開などの侵襲的手技は、外相初期診療ガイドラインJATECや内科救急診療視診JMECCに記載されているが肥満患者などでは部位道程が困難で、予期せぬ合併症も起こり得るため一般医師にとっては敷居が高い。しかし、超音波で観察すれば場所の間違いを防ぎ、正しい場所に針を穿刺することはできる。【神経ブロック】外来診療で処置をする際に、十分な鎮痛があることが望ましい。現在、神経は超音波で観察することが容易となり、四肢などの末梢神経ブロックが安全・確実に行える環境が整ってきた。初学者でも実践しやすい四肢のブロックの適応、禁忌、合併症対策を含めた基本をとりあげた。※健常モデルのため実際の人体への穿刺はなく、描出法を学びます。

受講対象者：医師

	氏名	所属
ディレクター	鈴木 昭広	東京慈恵会医科大学・麻酔科

#### 6 ハンズオン腹部 1月20(日) 13:40-17:10 (3:30)

##### コース名：腹部臓器の基本的描出法と急性腹症におけるPOCUS

基本的には急性腹症におけるトリアージを想定しているが、急性腹症の原因臓器と疾患は多岐にわたるため、必ずしもRUSHのようなシンプルなプロトコルでカバーすることは容易でなく、本来は病歴と身体所見から推定した診断仮説に基づきその目的臓器を描出するというのが理想的なPOCUSと考えられる。これらを鑑み前半は肝・胆膵・腎・脾・消化管・大血管を中心とした描出法をおさらいし、後半は急性腹症で最低限行われるべきプロトコルをトレーニングする。細かな描出法のコツなどに関してはハンズオンの現場で各受講者のレベルや要望に合わせて対応する。

受講対象者：基本的に腹部エコーの初級者を対象とする。

	氏名	所属
ディレクター	真弓 俊彦	産業医科大学 救急医学講座
コーディネイター	畠 二郎	川崎医科大学 検査診断学